

月刊 くちのえらぶ島の自然(7月号)

発行:えらぶ年寄り組
発行日:2013年7月31日
7月号

ウミガメ保護・監視業務が終了しました

えらぶ年寄り組が引き受け、5月20日に始まった「ウミガメ保護・監視業務」は、7月15日に終了しました。屋久島町から委嘱された活動は終わりましたが、ボランティアでの保護・監視活動は、今後も続けます。

ウミガメ情報

7月下旬、子ガメの孵化が始まりました。5～6カ所から子ガメ足跡を確認しました。4月から上陸63カ所、産卵25カ所を確認。卵は23カ所を移動しました。向江浜に砂が投棄されることになったため、やむなく、卵を安全な場所(託児所)に移動しております。エビス神社下に卵の保管場所(託児所)を作りました。子ガメは夜中に海に帰るので、なかなか見ることはできません。早朝なら出遅れた子ガメに出会えるかもしれません。託児所では、孵化・帰海した子ガメの足跡を見ることができます。

ウミガメ上陸と産卵

月日	時間帯	観察者	観察の内容
7月31日	930～1000	渡辺、後藤、山口	上陸#63、産卵は不明、ドンドロ側に、子ガメの足跡、多数あり。
7月27日	330～400	後藤	託児所#2からの子ガメの足跡、多数あり。
7月26日	530、900	渡辺、山口英、山口米	カラスにつつかれて死亡した子ガメ2頭発見。 託児所#2からの子ガメの足跡あり。
7月25日	530～600、 1630～1800	渡辺、後藤、山口	上陸#62。#61付近で卵を発見。卵143個、破損1(産卵#25→託児所#23)。託児所#2の上部が陥没、孵化が始まっている様子。
7月24日	530～600、 830～900	渡辺、山口	上陸#59、#60、#61、産卵確認できず。#61付近で、腐乱卵約80個を発見(昨シーズンの卵か?)。
7月22日	530～600、 830～900	渡辺、後藤、山口	上陸#58、産卵73、破損2、(産卵24→託児所#22)、子ガメの帰海の足跡2カ所あり。
7月21日	530、930	渡辺、山口英、山口米	上陸#57、戒神社下、他に子ガメの帰海の足跡1カ所あり。
7月19日	530、930	渡辺、後藤、山口	上陸#56
7月17日	530、830	渡辺、後藤	上陸#55、101個、破損2(産卵23→託児所#21)
7月14日	530、830	渡辺、後藤	上陸#54
7月11日	530、830	渡辺、後藤、山口米	上陸#53、121個、破損5(産卵22→託児所#20)
7月10日	530～600、 830～930	渡辺、後藤	上陸#48、上陸#49、上陸#50、153個、(産卵21→託児所#19)、上陸#51、上陸#52、産卵可能性あり、放置。
7月8日	530、930	渡辺、後藤、山口米	#47、104個、破損4個(産卵②→託児所#18)
7月7日	530～600	渡辺	上陸#47
7月4日	530～600、 930～1100	渡辺、後藤、山口	上陸#46、上陸#2した旧託児所#1の卵を→託児所#16へ移動、66個+腐敗15、上陸#13した旧託児所#2、125個→託児所#17へ移動、69個+腐敗53+破損1、いずれにも、白アリが付いていた。
7月3日	530、930	渡辺、後藤、山口英、米	上陸#45、140個、破損3個(産卵①→託児所#①)
7月2日	530、930	渡辺、山口英、山口米	上陸#44、産卵なし

子ガメ観察に行かれる方、歓迎です。

海岸の奥まったところには、ウミガメが産卵していますので、ご注意を。竹の立ててあるところは、産卵箇所です。踏み固めないようお願いします。砂を平にして、残った子ガメの足跡で、孵化状況を記録しています。出来るだけ踏まないようしてもらえると助かります。

コウモリ情報

エラブオオコウモリのペリット(エサの噛み残しを吐き出したもの)の調査は続けています。7月末になると、イヌビワはそろそろ終わり、今は、アコウの実の摂食が増えてきました。

ペリット調査

月日	時間	観察地域	内容	備考	観察者
7月31日	1130	本村・三浦	アコウ・オオイタビ・イヌビワ・グミのペリット	写真撮影 サンプル採取	後藤、山口
7月27日	1630	本村	アコウ・オオイタビ・イヌビワ・グミのペリット	写真撮影	後藤
7月19日	1500	本村	アコウ・オオイタビ・イヌビワ・グミのペリット	写真撮影	後藤
7月18日	1500	神社下の坂	グミのペリット	サンプル採取	山口米

ユネスコ・エコパーク 綾町 に行ってきました

7月6日、7日に、宮崎県・綾町で開催された下記の会議に参加しました。

1)参加行事

①照葉樹林研究フォーラム(2013年7月6日)、②ユネスコ綾エコパーク専門委員会(傍聴参加、7月7日)、③国際照葉樹林サミットの打ち合わせ会議(7月7日)、④サミットの引き継ぎ式(綾町から屋久島町へ、7月6日)などに、えらぶ年寄り組を代表して参加しました。山口の旅費と宿泊費は、屋久島生物多様性保全協議会からいただきました。参加の報告です。

参加者:屋久島町環境政策課、企画調整課、屋久島生物多様性保全協議会)から4名の皆さんと、えらぶ年寄り組から山口が出席。

2)参加の背景と目的

屋久島町は、すでに国連ユネスコからエコパークに指定を受けていますが、延長の申請が予定されています。その際、口永良部島も指定を受けたらどうかと云う提案があります。

綾町の行事に参加したのは、ユネスコ・エコパーク情報の収集のためと、2014年5月に屋久島での開催が予定されている「国際照葉樹林サミット」の打ち合わせ会議に参加するためでした。サミットの一部を口永良部島で開こうと云う提案があります。

3)目的地の綾町

2012年、綾町は、ユネスコ・エコパークとして認められました。綾町はエコパークを中心とした、町制の活性化を進めています。全国から注目されており、宮崎県の中西部に位置し、熊本県に接する。人口7,273人、面積95平方km(口永良部島は、38平方km)。市町村の平成大合併も拒否した町です。

4)ユネスコ・エコパークとは

屋久島町は、1980年(昭和55年)白山、大台ヶ原・大峰山、志賀高原とともに認定を受めました。昨年、宮崎県綾町が新たに認定され、全国的な注目を浴びています。世界では、107カ国の553地域(2009年5月現在)。

ユネスコ・エコパークは、自然の保護をすると同時に、その自然を生かして人々が暮らしている地域(自然との共生)を国連ユネスコが指定するものです。世界自然遺産が、自然環境や建物など自然・文化遺産を保護することに重きをおいていますが、ユネスコ・エコパークは、自然を守り、活用して暮らす地域が認定されます。自然と、人々の暮らしの両方ともが重要だとする考えです。

口永良部島では、すでにユネスコ・エコパークの考え方を実践して島民が暮らしてきたと云えます。自然の利用では、「里のエコツアー」があり、観光客の誘致や民宿経営もあります。活性事業組合のカライモやガジュツ作り、未来活性化協議会の定住促進のためのシェアハウスの運営も、自然利用の一つと云えます。また、広島大学の島での研究や、エラブオオコウモリやウミガメ、スダジイなどの照葉樹林の保護活動は、ユネスコ・エコパークで重要とされる自然の保護や学術活動にあたります。